

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>①児童の主体的な学びのために指導方法の工夫を行った結果、児童の「知・徳・体」の向上につながったことがうかがえる。今後は、校内研を中心に通じた実践を重ねることで組織づくりの強化を図る。</p> <p>②保護者、地域と連携した学校行事は概ね予定どおり実施でき児童の「知・徳・体」の向上が図れた。今後はコロナ禍で一時的に薄れた、「ひがしっ子」の合言葉があらためて地域に浸透するよう、情報発信に努める。</p> <p>③キャリア教育推進のために、様々な体験活動を実施した。多くの活動が児童の「出番・役割・承認」を充実させることにつながり、結果として自己肯定感を高められている。今後は地域や家庭との連携を更に進めて体験活動の充実を図っていく。</p> <p>④一人一人を大切に、お互いに認め合い、助け合おうとする素地ができてきている。今後も個の理解を通して、合理的配慮と個の支援・指導計画を全職員で共通理解を図り実践する。</p> <p>⑤業務改善・教職員の働き方改革への職員の意識は定着できている。今後は全職員が全児童の担任という共働意識をもち、協力して児童の指導・支援にあたることで教育の質の更なる向上を図る。</p>
--------------------------	---

2 学校教育目標	<p>みんなと確かに伸びる児童の育成</p> <p>○人を大切にする子 ○頑張る子 ○しっかり考える子</p>
-----------------	---

3 本年度の重点目標	<p>①感謝の心を大切にするとともに、自分や友達のように気持ちよく、「心・言葉・行動」を大切に児童を育てる。</p> <p>②地域にかかわる体験活動を通して、児童の「出番、役割、関わり、承認」を充実させることで、なりたい自分や将来について考えることができる児童を育てる。</p> <p>③児童の健康のために生活習慣の改善や定着化を図る。</p>
-------------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	
----------------------	---------------	--

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学校教育目標の目指す児童像の共通理解と校内研究で行う、課題を解決するための実践	○学習についての意識調査を行い、児童が自らの学習において、課題をおおむね達成したと答えた児童80%以上を目指す。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1・Vol.2」を踏まえ、授業で「めあて」「書く活動」「話し合う活動」「まとめ」「ふりかえり」を設定し、児童中心の授業を行う。	B	・授業で振り返りを書いたり、発表したりすることができたと回答した児童の割合は97%であった。意識調査であるが、授業の中で、振り返りは定着できていることがうかがえる。しかし、学習の定着や学習したことを生かし、自分から進んで学ぶことができた児童は多くない。これから、校内研究や校内研修を更に進めたい。	A	・保護者の評価が高いため、教師は授業の方法を工夫していると思われる。 ・授業を参観して、児童に考えることの大切さを教える内容で授業が行われていると感じた。	・学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全校道徳や県DVD教材を用いた授業で肯定的な振り返りを書いた児童80%以上 ○道徳科はもとより教育活動全体を通して、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導を行っている」と回答した教師の割合が80%以上	・全校道徳や県DVD教材「ジんちゃんケンちゃん」を用いた道徳科の授業において、振り返りの記入の実施 ・道徳科の授業に関する校内研修等の実施	A	・90%の児童が命・仲間・共生について学んだり考えたりできたと感じている。今後も魅力ある人材を招いていきたい。校内では心無い言葉が聞かれることもある。児童会活動などで児童が中心となり、温かい行動や言動が増えるように取り組む必要がある。	A	・全校道徳の授業や県のDVDを用いた学習など、計画的にやられていると思う。 ・全学年での縦割り活動や、ランチルームでの全校給食など、自然と思いやりの心が育まれていると思う。	道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義・いじめ防止等)についての取組・事後対応等)について組織的対応ができており、早期対応に回答した教師の割合が90%以上	・毎月末にアンケートを実施し児童の実態を把握する。いじめを覚知したら全職員で解決を図り、早期対応に取り組む。 ・児童の様子や問題行動等を共有する子ども理解研修会を毎月実施し、全職員の共通理解を図り、解決策を検討する。	A	・いじめを未然に防ぎ、思いやりを育てる指導に取り組んでいると回答した保護者が92.1%。いじめについて組織的に対応できていると回答した職員は100% ・いじめとして対応した件数は少ないが、児童による言葉遣いについてはまだ改善の余地があるので、指導を継続していく。	A	・児童の小さなサインを見逃さない観察や、保護者との連携が取れていると感じる。 ・言われたら嫌な言葉、されたら嫌な態度などを事前に話し合っていたら、いじめ防止の意識付けになると思う。	生徒指導主事
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・授業で、児童のつぶやきや発言を積極的に拾って板書に示したり、復唱したりすることで価値付け、児童が自分の考えに自信をもてるようにする。 ・授業や学校行事を通して、職業について知る機会を増やし、今の学習が将来のよりよい生活に生かされることを実感できるようにする。	・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童93.8% ・「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童87.5% ・授業や学校行事の振り返りで肯定的な感想を残し、新たな活動への意欲を示す児童が増加した。上手くいかないことがあっても、次は成功するために前向きに頑張る姿が見られた。	A	・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童93.8% ・「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童87.5% ・授業や学校行事の振り返りで肯定的な感想を残し、新たな活動への意欲を示す児童が増加した。上手くいかないことがあっても、次は成功するために前向きに頑張る姿が見られた。	A	・上級生などのリーダーだけでなく、一人一人の発表の場を作るなど、学校の努力や工夫が見られる。 ・おおむね良好である。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」を目指す。	「早寝早起きをしている」児童80%以上 「テレビやゲームをする時間が一日60分以内」の児童80%以上	・5月・12月に早寝早起きとテレビ等についてのアンケートを取り、実態を把握して生活習慣の改善を目指す。 ・委員会の児童と協力して、生活習慣改善のための放送を行う。	B	・1月のアンケート結果としては、早寝早起きについては80%以上十分に達成できているが、個人差があり、改善を全くしていない家庭がある。ゲーム、テレビについては一日に2時間以上見ている児童がいるので継続的な指導が必要である。 ・生活習慣については、指導が必要な児童がいるので、養護教諭と協力しながら、これからも声掛けを行っていく。委員会で、子供たちからお知らせや道具の準備などを呼び掛けていくことができた。	B	・バレーナースとの交流やサガン鳥栖サッカー教室の実施など、よくされている。 ・暑すぎたり寒かったりと、屋外での行動や活動が少ない状況の1年であったなかで、よくやられていると感じる。 ・地域の中で自転車の危険な乗り方を見て注意している。	健康部 体育主任
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○食事の基本的な技能や食事のマナーを身に付ける児童80%以上 ○食に関する指導の中で、感謝をする心や自分の心と体の健康に関心をもつ児童70%以上	・児童委員会の活動として、給食時間に指導を行う時間を設ける。 ・食に関するアンケート(5月・12月)を実施して児童の実態を把握する。	A	・年間を通して指導した結果、食事の技能やマナーだけでなく、感謝の心や自分自身の健康に関心をもつ児童が中間評価の66%から87%に増えた。次年度は、マナーや技能の定着に加え、食への関心をさらに高め、心身の健康に目を向けられるようにしていきたい。	A	・家庭でも引き続き関心をもってもらい、学校と協力してほしい。	健康部 食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日(原則毎週金曜日)を設定し励行する。 ・会議や各種研修の精選、内容の検討を行い、職員の負担軽減と時間短縮を図る。	B	・教務主任を中心に行事や次年度に向けた校時の見直しを行った。 ・時間外在勤等時間の平均は24時間12分と教育委員会規則に掲げる上限を遵守できたが、年次休暇取得日数は11日であった。放課後など短時間でも取得しやすい環境を推進していく。	B	・支援が必要な児童に対しての教員や生活支援員が不足しているのではないかと感じられる。教員が増えれば業務負担も軽減されると感じる。 ・学校も大事だが家庭も大事。ワークライフバランスを大切にしてほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	○全ての児童を対象とした、分かりやすい授業の実践	○児童の実態を把握し、合理的配慮を意図した授業ができていると回答した教師80%以上	・個別の支援計画及び個別の指導計画の作成と活用 ・特別支援教育に関する研修会の実施	A	・児童一人一人に応じた適切な支援を行い、担当している児童を一人も取り残さないように取り組むことができていると回答した教師100%	A	・支援児童の教育は1対1が理想。今の状況では教員のキャパオーバーになる。	特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
◎地域連携・地域を愛する人材育成	◎PTAや地域と交流する活動への積極的な企画、参加	◎「地域のように気持ちよく、地域の一員として何が出来るかを考える児童が増えている。今後は児童の「出番、役割、関わり、承認」を充実させるとともに、東唐津ならではの特色ある教育活動を行っていく。」と回答した児童80%以上	・児童が保護者や地域などに向けて学校行事への参加をうながす機会を設ける。 ・学期に複数回、ゲストティーチャーを招いた学習活動を行う。	A	・児童を対象にしたアンケートでは、地域のように気持ちよく、大切にしようとする児童の割合が100%であった。今後は地域との連携を図りながら本校の特色ある教育活動を行っていく。	A	・150周年式典では、多くのPTAや地域の方々との交流ができていたと思う。 ・北に東の浜、西に唐津城、東に虹ノ松原がある東唐津の環境は、どこにも負けない資産である。 ・今後も公民館行事をはじめ、地域の行事に積極的に参加してほしい。	特活部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・掃除や遊び、給食など多くの場面で縦割りでの活動を計画・実施した。活動を通して自他のよさに気付いたり、思いやりの態度で接したりすることができた。今後は小規模校のよさを生かした活動を継続していく。</p> <p>・校外学習を多く実施することで、地域のように気持ちよく、地域の一員として何が出来るかを考える児童が増えている。今後は児童の「出番、役割、関わり、承認」を充実させるとともに、東唐津ならではの特色ある教育活動を行っていく。</p> <p>・生活習慣の改善や定着化に向けて、児童や家庭への周知など計画的にできた。個別対応が必要な児童や家庭に対しては、今後も根気強く関わっていく。</p>
----------------------------	--